

「書 道 II」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	普通科 第2学年1～4組

1 学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1. 創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育てる。 2. 書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	書道II（教育出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学習内容	月	学習のねらい	備 考（学習活動の特記事項，他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）		
第 1 学 期	篆書の学習 篆書の用筆 篆書の特徴	4	漢字の歴史的流れをつかむ中で篆書の特徴を学ぶ。 篆書の特徴やその用筆を理解し、表現の方法を学ぶ。	現在の漢字が成立するまでの流れを確認する。 印面に刻す語句は各自が選択する。		
	隸書の学習 隸書の用筆 隸書の特徴	5	代表的な古典に基づいて隸書の用筆法を学び、隸書の特徴をつかみ、表現の方法を学ぶ。			
	篆刻の学習	6	印の歴史的流れを知り、書の分野における印の意義をしる。 篆刻作品を鑑賞し、自らも篆刻作品をつくる。			
		7				
	【課題・提出物等】					
	1 毎時間の学習課題は提出する。欠席するとその分の提出物がなくなる。					
	2 毎時間の最後に「自己評価」を行い、その日の取り組みを振り返る。					
【第1学期の評価方法】						
1 提出作品、遅刻欠席を含めた授業への取り組み、授業内で行なわれる小テスト、用具用材の扱い等、学習活動への参加態度をもとに総合的に評価する。						
2 学期全体の評価は、提出作品・小テストで80～90％、授業への参加状況（欠席・忘れ物・取り組み等）で20～10％の配分で行なう。						
3 提出作品については、漢字の書においては対象となる古典の特徴を表現できたか、篆刻においては切れのある線が表現できたか、朱と白の配分・配置はどうか、が評価の基準となる。						

第 2 学 期	篆刻のつづき	9	各自の篆刻作品を文化祭等の機会を利用して発表する。	
	草書の学習 草書の用筆 草書の特徴	10	古典の臨書を通して、草書の用筆と特徴を知る。	
	漢字の創作 古典を応用して仕上げる 作品の表装	11	漢字二字～四字の言葉を、今までに学習した書体の中から各自が好きなものを選択し、作品を作るまでの過程を学習する。 古典や字書の活用を知る。	
		12	作品を書き上げるだけでなく、発表できる形に表装する基本的技法を学ぶ。	
	【課題・提出物等】 1 毎時間の学習課題は提出する。各課題において段階ごとに提出し、進捗・内容を確認する。 2 毎時間の最後に「自己評価」を行いその日の取り組みを振り返る。			
第 3 学 期	【第2学期の評価方法】 1 毎時間の提出物、数時間にまたがった課題においては各段階における内容・進捗について評価する。提出課題や進捗は学習への取り組みが羽委されることが多いが、丁寧な取り組みによる進捗の遅れは考慮する。 2 学期全体の評価は、提出作品・小テストで80～90%、授業への参加状況で20～10%の配分で行なう。 3 提出作品については、草書の学習においてはその用筆や特徴を知り表現することができたか、創作においては古典の特徴を捉え、意図に基づく表現ができたかが評価の基準となる。			
	仮名の書の学習 散らし書き 変体仮名	1	百人一首の中から好きな歌を選び、散らし書きの構成例をもとに表現する。 変体仮名も使用し、表現の幅を広げる	
	漢字仮名交じりの書の学習	2	各自が好きな詩文を選び、自分の意図に基づき、書作品として表現する。	
	実用の書 祝儀袋等	3	今後の日常生活において使用されると思われる祝儀袋の書き方について学ぶ。	
	【課題・提出物等】 1 毎時間の学習課題は提出する。 2 毎時間の最後に「自己評価」を行い、その日の取り組みを振り返る。			
第 3 学 期	【第3学期の評価方法】 1 提出作品、授業への取り組み等、学習活動への参加状況を総合的に評価する。 2 学期全体の評価は提出作品・小テストで80～90%、授業への参加状況で20～10%の配分で行なう。 3 提出作品については、仮名の書においては段階を追って各課題をきちんと理解できたか、散らし書きや仮名の流動美を表現できたか、漢字仮名交じりの書においては意図した表現に近づくことができたか、実用の書においては丁寧に取り組むことができたか、常識的な知識を習得できたか、が評価の基準となる。			
	【年間の学習状況の評価方法】 1, 2, 3学期の成績を総合し、年間の学習成績とする。			

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・ 書道の学習においては、まずよく見るのが大切です。対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・ 何かを表現するためには、何をどう表現したいのかということを考えていなければなりません。書く前に考える、書いた後に考える習慣をつけましょう。 ・ 技法の習得は主として古典の臨書によることが多いですが、1枚1枚を丁寧に自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。 ・ 説明する学習課題のポイントをよく聞き、その時間の目標を明確にすることです。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・ 心を落ち着ける環境でなければ良い書は書けません。互いの上達のためにも授業中の私語は慎んでください。 ・ 用具は個人の所有物、学校の備品ともに大切に扱しましょう。 ・ 毎時間の課題は提出することが基本です。「自分自身が納得のいくものが書けなかったから」と、提出することのないようにしてください。納得が行くまで書きたい人は申し出てくれれば時間を設定します。 ・ とにかく「休まず」きちんと取り組むことです。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・ 漢字仮名交じりの書を通して、表現の多様さに関心を示し、自分の意図するものを表現しようと意欲的に取り組んだか。 ・ 漢字の書を通して、各時代の美しさに関心をもち、意欲的・主体的にその表現方法を学ぼうとしているか。 ・ 仮名の書を通して、日本の伝統的な書の美に関心をもち、意欲的に取り組んでいるか。 ・ 諸活動全体を通して、意欲的に取り組んでいるか。	・ 学習活動への参加状況 (出欠・遅刻・忘れ物・参加態度等) ・ 「自己評価表」の記入状況 ・ ノートの整理状況 ・ 提出作品
芸術的な感受や表現の工夫	・ 完成を豊かにし、漢字仮名交じりの書・漢字の諸・仮名の書の良さや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫しているか。	・ 提出作品 ・ 「自己評価表」の記入状況
創造的な表現の技能	・ 漢字仮名交じりの書を通して、自己を主体的に表現する能力を伸ばし、自分の意図するものを基表現する技能を身に付けているか。 ・ 漢字の書を通して、さまざまな用筆による表現方法を身に付けているか。 ・ 仮名の書を表現するために必要な線や構成の技法を理解し、身に付けることができているか。	・ 提出作品 ・ 「自己評価表」の記入状況
鑑賞の能力	・ 各書体における美しさを理解し、味わっているか。 ・ 書の良さや美しさを味わっているか。	・ 「自己評価表」の記入状況 ・ ノートやプリント

3 担当者からのメッセージ

- ・ 1年生の時には学ばなかった書体も学習し、さらにいろいろな「書」があることを知ってほしいと思います。書に親しみ、筆を中心にさまざまな表現があることを知ってください。
- ・ 授業時間の中での進歩、単元を通しての進歩、学期を通しての進歩、そして、1年間の学習を通しての進歩が感じられるような学習の取り組みを期待します。
- ・ 素直に物事を捉える目を養ってください。また表現する喜びを感じてください。